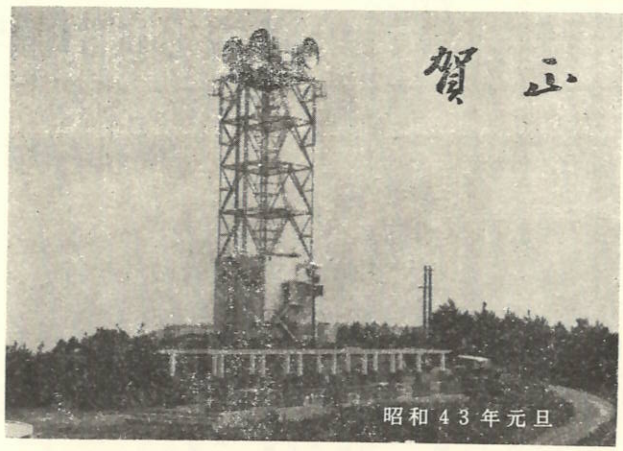
広報伊方町



静かに昇った太陽が、昭和43年の朝明けをつげます。
恵まれた気候、豊かな風土の上に、繁栄する青写真が、
点を線に、線を帯びにぬりかえ、〝住みよい町〟〝住みつく町〟〝住みたくなる町〟の町づくりのため、伊方町の新しい開発がことしも進められます。……

発行人
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
伊方町町民室
印刷所
尾上印刷所
八幡浜市天神通
電話②0091番

ごあいさつ

伊方町長　山本長松

輝やかしい昭和四十三年の新春を迎え町民のみなさまに心からおよろこび申し上げます。

昨年は冬の雪害、夏の干ばつと全く農家のみなさまには多事多難の年でした。

今年こそは何か良いことがありそうな年、飛躍的な発展が期待されそうな年、そんな年のような気がいたします。

町内のみなさんも、遠く町外でご活躍の方々も新しい年を希望と抱負で楽しくお迎えのことと存じます。わが町も飛躍的な行政水準の年であります。新たな決意のもとに諸施策を推進いたす覚悟であります。

昭和四十一年決算で町制施行以来初の黒字となり健全財政を確立いたしましたことは町民各位の理解とご協力の賜ものと深く感謝申し上げます。

本年度は、農道網の新整備、教育施設の拡充、完全給食の実施、町民の福祉向上を重点施策として推進する所存であります。

私の信条といたします〝住みよい町〟〝住みつく町〟〝住みたくなる町〟の建設に今後町民各位のより一層のご支援ご協力をお願い申し上げ年頭にあたり所感の一端を述べてごあいさつといたします。

町制施行以来初の黒字決算
健全財政を確立

―昭和41年度―一般会計決算から―

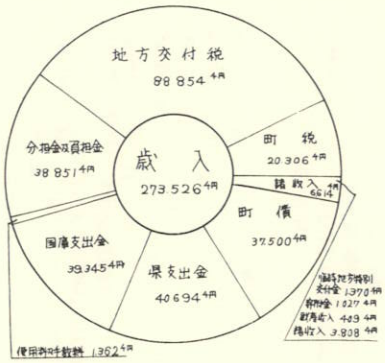
昭和四十一年度町の一般会計の決算ができました。

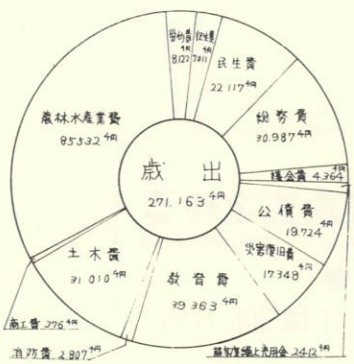
これをみると、昭和三十一年六月伊方町が財政再建団体に指定されてから十一年、ようやく昭和四十一年度で再建完了し一七七万円の実質黒字となっております。

このことは、町政について町民のみなさんの理解とご協力の賜ものであります。

そこで次のグラフにより決算の概要を説明いたします。

昭和41年度　一般会計決算





歳入

入ったお金（歳入）は、二億七三五二万円、使ったお金（歳出）は、二億七一一六万円です。差し引き、二三六万円の残となりますが、年度内に事業が終らず翌年度に繰り越したものがあり、その財源を差し引くと実質黒字一七七万円となります。

◎入ったお金（歳入）

入ったお金の主なもののなかで一番多く入ったのは、地方交付税で八、八五五余万円、次に国庫支出金、県支出金、負担金の順になっており、町債は五番目で三、七五〇万円です。

これは、町が事業をやるため、国などから借りた借金で長期にわたって返済しています。およそ歳入全体の一三・七％にあたります。ついで、みなさんが納めた町税で二、〇三〇余万円（七・四％）です。

この町税の納税率が九六・六％の好成績ですが、未納分が約七一万円もあります。

滞納者は一日も早く町税を納めていただき、みんなといっしょに町づくりにご協力ください。また四十二年度こそ納税率一〇〇％達成をめざし、納税者のご協力をお願いします。

使ったお金（歳出）

一人当り　二五、五八六円

使ったお金のなかでの横綱は、農林水産業費の八、五五三余万円でついで教育費の三、九三六余万円です。農林水産業費、教育費を合せると、使ったお金全体の四六％をしめております。

三番目に土木費の三、一〇一万円、次に総務費、民生費、公債費災害復旧費の順になっています。

使ったお金は総額約二億七一二六万円ですが、これを町民一人当り、どのくらい使ったことになるかというと一人、二五、五八六円、一世帯当りでは、一〇七、八六一円使った勘定になります。

なお、四十一年度で主に行なった事業は次のとおりです。

事業費総額一億円
昭和四十一年度事業内容

◇普通建設事業

伊方中学校体育館新築事業　一、七〇〇万円
豊之浦保育所増築事業　九六万円
伊方港局部改良事業七一三万円
九町漁港海岸保全事業　六〇六万円
鳥津漁港関連改良事業　七〇九万円
鳥津漁港局部改良事業　五六四万円
九町漁港局部改良事業　二八五万円
農業構造改善灘地区　一、六六〇万円
農道新設事業　四三九万円
大浜農道新設事業　四九万円
川永田農道新設事業　四九万円
川永田魚有場農道改修事業　一〇〇万円
湊浦伊方越線改良事業　四〇三万円

◇災害復旧事業

田之浦防波堤復旧事業　四九五万円
鳥津防波堤復旧事業四二二万円
中之浜防波堤復旧事業　一九二万円
川永田農道災害復旧事業　一二六万円
現年発生小災害復旧事業　二三四万円

◇失業対策事業

町道補修及び公園整備事業　四一三万円

年頭のことば

議会議長　竹場兼男

謹んで新春のおよろこびを申し上げます。

希望に満ちた昭和四十三年の新春を迎え町民の皆様方と共に祝福しおよろこび申し上げます。

昨年は、選挙に明け知事、全国地方選挙が行なわれ、私共も議会におくられたのであります。

選挙後の複雑な情勢の中で議会に於いて又、町行政の運営にしても調和の取れた協力態勢の実施を念願してまいりました。

この一年間には、夏柑は雪害にみかんは未曽有の干害、又豊之浦地区の小トロ問題等身心ともに多事多難な明け暮れに終始したのでありますが皆様方のたゆまないご協力と伝統を誇る根性と実行力に依ってこれを克服しましたことを心から敬意を表すものであります。しかしながら、町議会に於いても、これら諸般の問題解決には、今後町行政の大きな課題であると考えます。

ここに、輝しい新年を迎えるにあたり、私共、町議会はさらに責任の重大さを一層痛感し町民生活の安定と福祉向上を図るために最善の努力を惜まない覚悟でございます。

何卒、町民各位の一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

議会議員（議席順）
竹場　兼男　米沢　彦志
佐々木　勝　二宮　頼志
中元　清吉　中川鏡太郎
高田　健一　菊池　彦光
兵頭宇三郎　菊池　武雄
大林　雅男　福田　儀郎
樫尾　寛　渡辺　菊義
黒田　市栄　茅田　一
明神　紀男　高野　違
議会事務局長　岩事　正

伊方町役場

町長　山本長松
助役　大本亀夫
収入役　城岡武夫
総務課長　武田庄松
民生課長　岡崎春長
保険課長　岩見正志
建設課長　兵頭熊一
産業課長　畑本直隆
水道課長　河野吉一
町民室長　脇田道
職員一同

伊方町教育委員会

委員長　今城弘法
教育長　井桜政勇
委員職員一同

区長

大浜　浜本浩
中之浜　門田裕明
仁田之浜　由井幸徳
湊浦　三好英一郎
湊浦二戎　光造
伊方越　水沼友一
亀浦　阿部一幸
中浦　井上徳太郎
川永田　菊池勇次
豊之浦　辻操
新一
向　唯雄
菊池伝治
須賀二宮　功
久保根来辰雄
西上田磯　数
二見大野照夫
加周野田一夫
田之浦玉井進
古屋敷大山則行
大成古田好彦
鳥津竹上耕市
河内安部安

昭和四十三年の新春をむかえつつしんでみなさまのご健勝をおよろこび申し上げます

住民基本台帳で窓口統合

住民サービスと行政の合理化がねらい

長い間、親しまれてきた住民登録法が廃止になり、それにかわって新しく住民基本台帳法が制定され、十一月十日から実施されました。

この法律の主な内容は役場の窓口でみなさんの転出や転居、選挙、国民健康保険、国民年金、配給など、窓口事務の手続きが、これまでは別々にされていたものを、改正によって一度に処理するようにしたもので、窓口でのおさんの複雑さもなくなり、非常に便利になりました。

又、これによって、役場の事務の合理化にも役立つことになります。

それでこれからは、みなさんが転出(町外)、転居(町内)、世帯主変更をされる場合、または、他の市町村から転入をされた場合、次のものが必要となりますから、必ず持参して下さい。

持参するもの

○印　鑑　○国民健康保険被保険者証

○国民年金手帳　○転出証明書

成人と国民年金

社会人としての権利と義務を

一月十五日は成人の日です。成人の日が祝日として制定されてから満二十年経過し、事実上、成人っても生活の支えとなるわけでました。

「おとなになったことを自覚しみずから生き抜こうとする青年を祝いはげます日」という趣旨でこの祝日が制定されました。

二十才になるということは、選挙権ができ、ただ政治に参加する資格ができたばかりでなく、一人前の社会人として、いろいろの権利や義務を身につけることになります。

社会保障の面においても同じです。すでに社会や工場で働いている人は、医療保険に加入しているとともに、厚生年金などに加入して保険料を納めています。

ところで、農業や漁業、商業などを考えますとき、若いいまのうちから真剣に取り組まなければならない問題です。

さらに、最近の交通戦争をみますと、年金の必要性は身近に感じられることと思います。

この人たちは、二十才になったときから国民年金に加入することになっています。

伊方町には現在約二、三百人が加入しているわけですが、今年二十才を迎えると同時に国民年金に加入する届を役場へ出していただかなければなりません。

国民年金に加入して月づき保険料を納めることによって、会社や官庁に勤めている人と同じように事故や老後の所得保障が受けられるしくみになっています。

わずか月に二百円納めておけば老後はもちろん、思わぬ事故にあっても、生活の支えとなるわけです。

日本の年金制度は、国民年金の誕生によって、世界でも数少ない国民皆年金、すなわち、日本国民ならどれかの公的年金制度に加入して、所得が保障される新しい時代に入りました。

福祉国家づくりはもちろん国の責任によって行なわれなければなりませんが、国民ひとりひとりの理解と協力が大きな推進力になります。

二十才になる若い人たちには、老後の心配など想像もつかないことでしょうが、日本の人口構成は将来、老令人口が大幅にふえることになります。

「二十才になったら必ず国民年金の加入届を役場へ出す」このことを、成人の日を機会に、しっかり頭に入れて下さい。

その他、詳しいことは、役場保険課年金係へお問い合せ下さい。

持参するもの

○印　鑑　○国民健康保険被保険者証

○国民年金手帳　○転出証明書

西浦
(男九名、女一三名、計二二名)
佐々木礼二、武田千代治、梶谷政雄、林大介、政木孝夫、三川由和、梶田きよみ、上野一二三、梶田光枝、梶谷悦子、梶谷文、川口久美、隅田京子、佐々木登志、広瀬香代美、三好イク子、山口富子、小林正行、菅原昭二、登口秀司、小松ラン子、笹野よしみ

小中浦
(女二名、計二名)
大通キヨミ、渡辺明美

中浦
(男四名、女五名、計九名)
奥田総一郎、亀井孝志、中井和敏、兵頭政昭、青山園枝、竹内なほみ、堀上惠子、山下とみ、山本シズ

川永田
(男八名、女三名、計一一名)
阿部順義、金村源一郎、桜谷福博、前田銃太郎、増田愛明、松田和男、浅田雅恵、築島恭子、松岡鈴子、川口数行、橋本清

伊方越
(女一名、計一名)
辻シズヨ

亀浦
(男二名、計二名)
井上和男、中田代喜男

豊之浦
(男五名、女二名、計八名)
高石定行、竹内健治、中田耕三福島八郎、河野建司、上田末美長田みまず、渡辺幸子

奥
(男四名、女二名、計六名)
辻恭芳、菊池孝、菊池佳行、城岡英夫、渡辺穂積、渡辺ひろみ

向
(男二名、女一名、計三名)
堀内文和、浪下時雄、下向喜代美

畑
(男二名、女三名、計五名)
畑本勉、武内隆二、西内朝香、中島貴美子、武内節子

須賀
(男二名、計二名)
井上久志、**樹田伝治**

久保
(女二名、計二名)
井上伸子

西二見
(男四名、女一名、計五名)
林敏雄、高田佐喜夫、高田五夫
阿部文雄、野田富子

加周
(女一名、計一名)
山口節子

田之浦
(男二名、女三名、計五名)
徳野哲夫、亀本寛房、今城初恵
林真美

古屋敷
(男三名、女一名、計四名)
井上直規、渡辺末光、明神実金
山フミカ、平井育美

大城
(男一名、女一名、計二名)
高橋敏男、佐々木ちずる

(二名、女一名、計三名)
金子ひとみ、小島初、小島正

昭和42年干害応急対策査定結果表

名称	水かん面積	査定事業費	10a当り事業費	1戸当り事業費
	na	千円	円	円
浦間	11.4	4,237	37,166	92,108
敷地	5.9	1,502	25,457	44,177
池	13.5	4,147	30,718	125,667
成	2.0	694	34,700	27,760
津見	2.7	466	17,259	27,412
崎安ヤ	13.8	2,242	16,246	45,755
カ	18.0	4,385	24,361	87,700
ラ奥見	5.2	1,095	21,057	33,182
町	9.1	2,939	32,296	57,627
協	7.6	1,963	25,828	67,690
協	6.3	1,315	20,873	31,310
	5.1	1,684	33,019	——
小計	100.6	26,669	26,510	61,088
浦1	22.6	3,838	16,982	41,269
2浦	61.7	17,670	28,638	112,548
浦浦内越	2.4	491	20,458	32,733
浜浜協営	15.9	4,633	29,138	71,277
農	5.1	857	16,803	20,902
中	17.1	3,567	20,859	41,000
方	18.2	2,714	14,912	30,841
田之	9.8	1,789	18,255	45,872
之	16.4	3,477	21,201	86,925
方	18.1	4,231	23,375	52,887
町	27.5	11,383	41,393	151,773
大伊亀仁	45.5	15,029	33,031	111,326
町	20.3	6,152	30,305	——
	1.8	542	30,111	——
小計	282.4	76,373	27,044	76,403
合計	393.0	103,042	26,219	71,661

▽注△　査定事業費は足切前のものであり(工事雑費事務費を含む)なお各団地を地区毎の集計である。

干害応急査定終る

事業費 1億300万円

本年七月中旬以降、一〇八日間に及んだ大干ばつは、十月二十六二十七日に至り連続降雨量一七一・六ミリによって終結しました。

この間昼夜兼行の水運搬とかん水作業に、ばく大な経費と労力が傾注されたことは衆知のとおりであり、また農作物被害は七億円を越すものといわれるが、このほかに物心両面の被害もあるわけで、あれこれ総合すると、それは全く過去に類例がないほどの巨額に達することが推計されます。

干害応急対策事業を実施した町内四二団地それぞれの団地出来高を集計して、国庫補助申請をしたところ、十一月二十八日より十二月二日に至る五日間にわたり、本町へ干害査定(第一次)の第五班が来町されました。

査定官(農林省中国、四国農政局)越智技官、立会官(大蔵省松山財務部)岡本主計官、県随行(県耕地課)加藤主事一行により連日町内の機械およびホース類、貯水槽、書類帳簿等の検査が厳正に実施されました。

その結果は別表の通りであるが申請に対する査定率は九二・八四%となりますが査定規準と補助要綱の定めるところにより、水路工は延長の七〇%が補助対象であり、さらに貯水槽も反当一・五トン(八・二五石)以下の容量のものは失格になるなどきびしいものがあり、また水運搬費、燃料費は補助対象とならず天災融資の対象になります。

今後は干害恒久対策事業が重要な課題である。

(詳細次号参照)

貯水槽査定状況

機械の査定状況

本部ノート No.2

9月29日　保内町の給水制限について対策協議のため、保内全町役場と西南開発工場へ町長、産業課長出張
△愛媛大学西岡助教授一行水源調査のため来町、町見地区調査

9月30日　干害対策陳情のため、町長、産業課長松山へ出張
△愛大西岡助教授一行水源調査(川永田、湊浦、中之浜、大浜)

10月2日　阿部代議士干ばつお見舞のため来庁、関係者陳情

10月4日　高橋代議士干ばつお見舞のため来庁、関係者陳情
△水運般船(三〇トン積タンカー船)二豊丸、西条より水を満載し入港し、農家へ、水運搬車、水運搬船に配水

10月5日　応急対策事業報告書受付開始

10月8日　大蔵省予算監察官、農林省査定官、黒河内中国四国農政局長、毛利代議士、毛利県農林水産部長一行、干ばつ被害状況調査のため来浜、産業課長陳情のため出張

10月10日　干ばつ被害状況定期報告(第8回)

10月17日　干害対策事業事務打合会(八幡浜市)係長出張

10月20日　干害応急事業団地別代表者会(午前、伊方地区)(午後、町見地区)

11月1日　県事務所土地改良課、井上、上田技師貯水槽検査のため来庁、二班編成で大浜地区と湊浦、中浦、伊方越、亀浦地区

11月1日　現地調査

11月2日　県事務所井上、上田技師前日に同じく二班で、中之浜河内地区と川永田、豊之浦地区を現地調査

11月3日　三班編成で町見地区一円の貯水槽現地調査

11月4日　伊方地区団地の代表者会議(農協営問題協議)

11月7日　団地別申請一覧表提出(八幡浜県事務所経由)

11月7日　伊方地区団地別代表者会議(共同施行に決定)

11月11日　貯水槽検査員の事前打合会

11月12日　貯水槽工事検査のため九班編成で町内一円を巡回調査

11月13日　昭和42年干害査定基準等説明会(八幡浜市)課長出張

11月14、天災融資の激甚地指定申請のため係長外八幡浜市出張

11月15日　団地別ヒヤリング開始(伊方越、小中浦、川永田2湊浦、河内、亀浦)

11月16日　団地別ヒヤリング(豊之浦、中浦、仁田之浜、大浜)

11月17日　団地別ヒヤリング(川永田、中之浜)

11月18日　団地別ヒヤリング(町見地区11団地、町見農協会議室)

11月20、　昭和42年度干害査定要綱説明会(松山市)課長出張

11月21日　干害被害状況調査のため農林省災害復旧課臼石係長来町、選挙場とみかん園視察

11月27日　団地別第二次ヒヤリング(町見地区11団地)

11月28日　干害応急査定開始

12月3日　終了(詳細本文の通り)

町の厚生金庫へ一万円

川口さん香奠がえしに

川口命教(川永田二)さんは御母堂の葬儀の香奠がえしにと、町の厚生金庫へ一万円寄贈されました。この金庫は、町内に居住する被保護世帯並びに要保護世帯の自立更生のため必要な資金及び現物を貸与し希望に満ちた豊かな生活ができるよう設置されています。

お礼

大分県速見郡日出町大神にお住いの木本若吉氏(中之浜出身)より六二五円、別府市北的ケ浜町にお住いの菊池与三郎氏(川永田出身)より一千円、又大阪府門真市大字二番二九七七にお住いの山口幸弘氏(伊方越出身)より五八〇円それぞれ広報編集の費用にとご寄附いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康と活躍をお祈り申し上げます。